
暁の新生帝国

弾井 寛

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

暁の新生帝国

【Nコード】

N6929G

【作者名】

弾井 寛

【あらすじ】

こちらでは、プロローグのみ公開しております。

プロローグ

―2000X年1月10日―

―東京都目黒区―

「よッ！」

「おう、来たか。」

声を掛けた俺の名は

弾井 寛 （たまい ひろし）三十五才、元航空自衛官で今はフリーのカメラマンだ。

今日は、取材を兼ねて航空自衛隊時代の同期である、高崎二尉の所属する防衛研究所へ見学に来ていた。

高崎とは熊谷にある、第二教育隊時代からの付き合いで、俺が訳あって空自を辞めてからもたまに、シャバへ飲み連れ出したりしていた仲だった。

防衛研究所とは、幹部自衛官に世界情勢や最新装備等の教育を行ったり、現装備品や新兵器などの研究を行っており、また太平洋戦争の戦史の編纂もここで行われていた。

俺は前からここに興味が有り、一度個人的に取材をしようと思っていたのである。

そこへ同期の高崎がひよんな事から出向となり、ついに俺の念願が

叶い、招かざる見学者となって今日、ここを訪れたのである。

招かざるとは俺がマスコミの人間だったからだ。

最近、防衛省では情報漏洩が続きマスコミに対し敏感になっていたのだ。

そこで俺は一計を案じ、高崎の義理の弟に成りすまし、目立たぬよう職員の少ない日曜日に見学に来たのである。

「お前の頼みはむげに断れんからなあ、だが俺のクビが飛ぶような事だけは勘弁してくれよ！」

「分かってるって、お前の心配するような事はせんからさ。」

俺はそう言いながら、いぶかしげな目で見るガードマンの手から入構証を受け取り、それを首からぶら下げ所内へと案内された。

防衛研究所は思ったよりも広く、日曜日ということもあり人影はなかった。

建物に入り最初に連れて行かれた所が戦史編纂室だった。

「しかし奇偶だよなあ、お前の爺さんも特攻隊だったとはなあ。」

高崎が俺の顔を見ながら、先日の居酒屋での話の続きをはじめた。

「ああ、まったくだ、お前の爺さんと俺の爺さんがもしかしたら同期の桜だったかも知れんとはなあ。」

俺は高崎に答えながら、上着のポケットから一枚の古びた写真を取り出し、そこに写っているひとりの若者をジッと見つめた。

亡くなった祖母の遺品を整理している時に、たまたま俺が見つけた父に尋ねると

「わしも初めて見るのお。」

とそれを手に取り裏返すとそこには弾井 源一郎と記されており昭和二十年六月横空にてと添え書きされていた。

特攻隊で散っていった、祖父の在りし日の遺影だったのである。

俺はパソコンの前に座り、早速昭和二十年の横須賀基地のデータにアクセスした。

とその時！パソコンの液晶画面が消え、真っ暗になり続いて机がガタガタと震え出したと思ったとたん！部屋全体が揺れ出し、ようやく地震だと解り俺達は慌てて机の下へ潜り込んだ。

だんだん揺れはひどくなり、周りにある書棚が次々と倒れ出した！

と次の瞬間！ドーンと地面が突き上げられ、部屋の照明が消えいきなり揺れが収まった。

「おい！弾井、大丈夫か！」

「おう、なんとかな。今のかなりデカかったな！」

「ああ！7はあったかな！って事はまさか！」

「そのまさかだな！東海地震じゃないか！」

「おいおい、家は大丈夫かなあ。」

高崎は慌てて携帯電話を取り出し、かけたが繋がらないのか俺のはどうだと聞いて来た。

俺は自分の携帯をポケットから出し、見てみるといつもならバリ3なのに、今は圏外となっていた。

「俺のもダメだ、ここは電波が悪いんじゃないのか？」

「いいや、いつもはバリ3なんだがなあ。」

高崎は携帯を手に持ち腕を伸ばし、上げたり下げたりしながら気のない返事をした。

俺はカバンからハンディカムを取り出し、早速その様子を写し始めた。

続きは、こちらでご覧になれます。

<http://tamaihirosi.blog.ocn.ne.jp/teikoku/>

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6929g/>

暁の新生帝国

2010年10月28日01時37分発行